MDPRO ミニコラム： 普通貿易統計 2020 年 1～8 月の医療機器輸出金額調査

わが国では新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により医療機関を受診する患者数が減少しています。日本病院会などが行ったアンケート調査によれば、新規入院患者数は対前年比で 4 月は 20.0%減、5 月は 28.6%減となり、その後若干の回復傾向にはあるものの依然として 7 月時点で 13.3%減となっています。また、この患者数減少の影響からか、医療機器の国内出荷金額も薬事工業生産動態統計調査(以下、薬事統計)によると対前年比で 4 月は 1.4%、5 月は 8.3%減少しています。コロナ禍は日本だけでなく全世界に及んでいますので、世界各国の医療機器需要も低下しているかどうか知ることも重要と考えて今回は、財務省が公表している貿易統計を用いて調べてみました。方法は、普通貿易統計[*1]の品別国別表を用いて、2019 年 1 月～2020 年 8 月に日本から米国、欧州、中国、その他へ輸出された医療機器(表 1 に示した HS コードに該当する医療機器)の輸出金額としました。その推移をみると、図 1 のようでした。

表 1. 集計対象とした HS コードと該当する医療機器

HSコード	医療機器
30.05	脱脂綿、ガーゼ、包帯その他これらに類する製品
4014.14	コンドーム
9001.3	コンタクトレンズ
9001.4	ガラス製の眼鏡用レンズ
9001.5	その他の材料製の眼鏡用レンズ
90.04	視力矯正用眼鏡、保護用眼鏡その他の眼鏡
90.18	医療用又は獣医用の機器
90.19	機械療法用、マッサージ用又は心理学的適性検査用の機器及びオゾン吸入器、酸素吸入器、エアゾール治療器、人工呼吸器その他の呼吸治療用機器
9020	その他の呼吸用機器及びガスマスク
90.21	整形外科用機器、補聴器その他器官の欠損又は不全を補う機器、人造の人体の部分及び副木その他の骨折治療具
90.22	エックス線、アルファ線、ベータ線又はガンマ線を使用する機器

図 1 でまず、米国のデータをみると、2019 年 1 月から 2020 年 3 月までは概ね 170 億円前後で推移している輸出金額が、4 月～8 月は 95～143 億円と大きく減少していることがわかりました。米国のコロナ禍の拡大は州によって異なりますが総じて 4 月頃から顕著になりましたので、米国でもコロナ禍の影響で医療機器の需要が低下しているとも考えられます。しかし、欧州と中国向けの輸出金額は米国向けほどの減少はなく推移していますので、8 月以降のデータにも注視する必要があります。

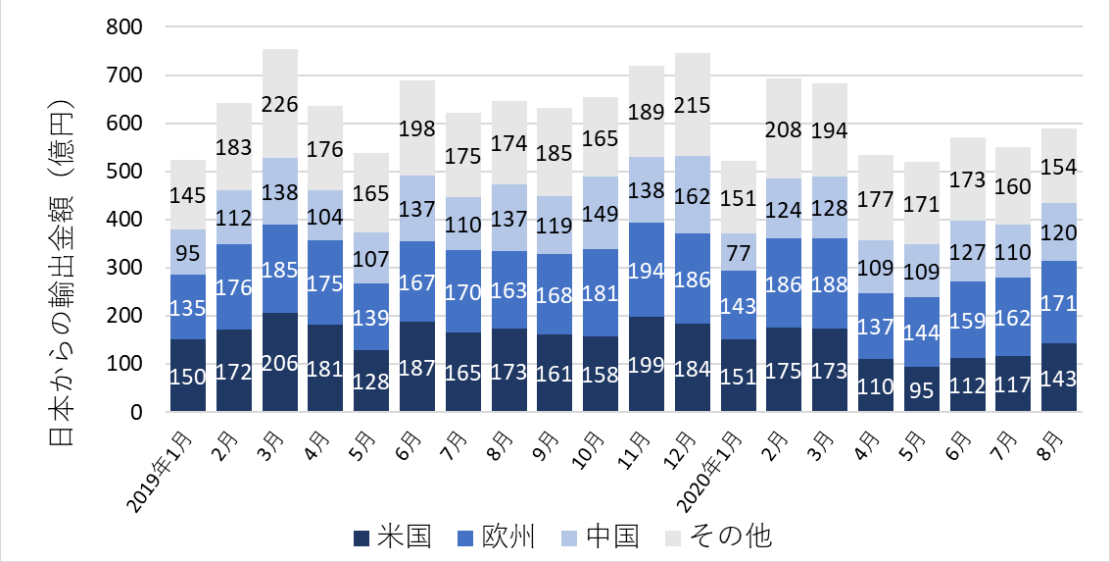

図 1. 米国、欧州、中国への輸出金額推移

次頁の図 2 は前年からの変化をさらに詳細に確認するために示したもので、輸出金額の対前年同月比の増減率を 3 ヶ月移動平均で算出しています。

図 2 を見ると、米国では前年比で 20～30%減が続いており、8 月まではっきりとした回復傾向は見られていません。日本からの最大の輸出相手国である米国への減少金額は、直近の 8 月では全世界への減少金額 57 億円に対して 30 億円と 50%を超えており、輸出全体に対しても大きな影響を及ぼしています。欧州は 6 月までは、前年比で 5～8%減で推移していましたが、7,8 月では-2%まで回復しています。米国と欧州の違いが何によるのか詳細は不明ですが、米国に比べて欧州各国では都市封鎖などにより感染拡大を抑え込めたためとも考えられます。中国は 2020 年 3 月時点では 5%の減少した後、武漢の感染を抑え込みに成功した 4 月以降は前年と同水準か若干のマイナスで推移していましたが、8 月では再び 7%減少となっています。その他では 2020 年 6 月までは 0～6%減で推移していましたが、8 月に 11%減となり減少幅が拡大しています。また、TOTAL で示した値は 4 月以降 10%前後の減少で推移しています。

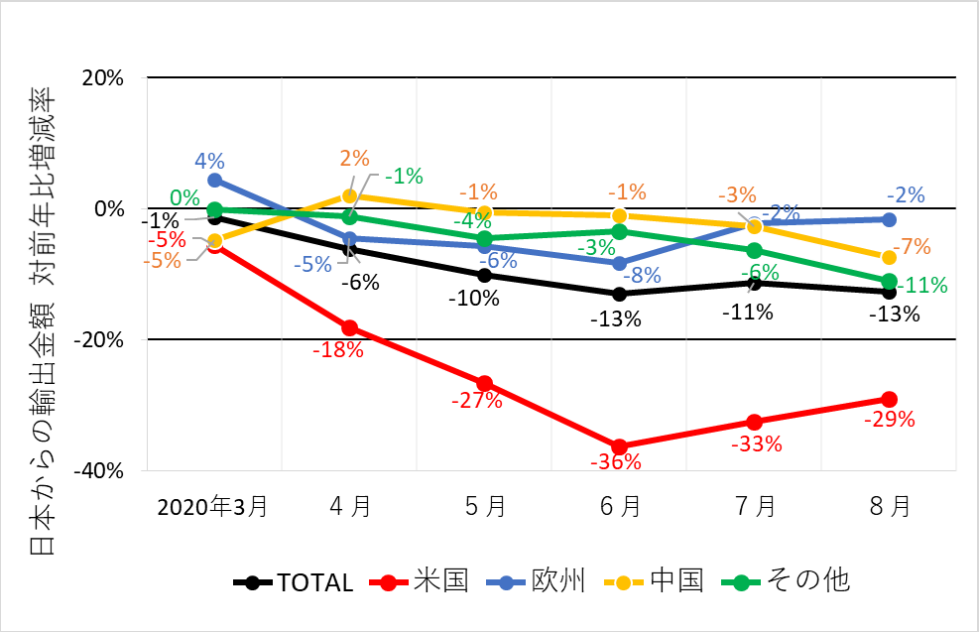

図 2. 米国、欧州、中国への輸出対前年比

図 1 及び図 2 から輸出金額の減少は主に米国と、欧州・中国を除くその他の国の影響が大きいことがわかったため、その他の国の内訳を調査して輸出金額の推移を図 3 に示しました。なお、対象国が 104 か国と多岐にわたるため、輸出金額の多い韓国、シンガポール、台湾、オーストラリア、インド、香港に着目し、それ以外の 98 ヵ国はその他の中の「その他」としてまとめました。さらに図 2 と同様に対前年同月比の変化率を 3 ヶ月間の移動平均で算出して次頁の図 4 に示しました。

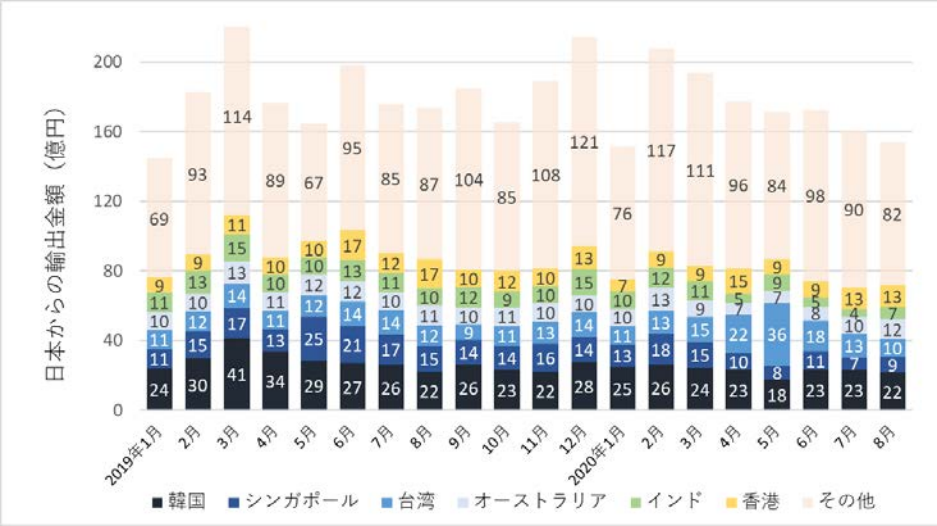

図 3. 米国･欧州･中国を除く各国への輸出金額推移

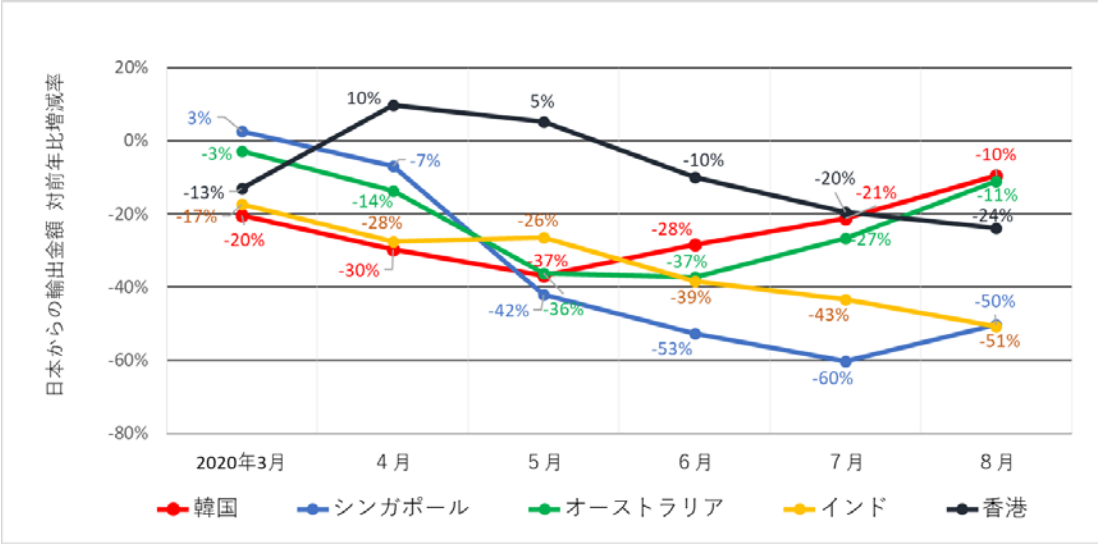

図 4. 米国･欧州･中国を除く各国への輸出対前年比

図 3、4 を見ると、韓国は前年比 20～37%減と大きく減少はしているものの、ここ数ヶ月で減少幅は小さくなる傾向も見られます。シンガポールは減少幅の拡大が継続し、直近では 50%減の状況が続いており今後の推移が懸念されます。オーストラリアは韓国の推移に近く、3～37%減と大きく減少はしているものの、ここ数ヶ月では減少幅は小さくなる傾向も見られます。インドは 8 月時点で感染拡大に歯止めがかかっていないため、減少幅の拡大が継続しているようにみえ、8 月時点の 51%減が今後さらに悪化することが懸念されます。最後に香港ですが、4 月、5 月は前年比プラスでしたが 6 月から急激に減少しており、8 月時点で 24%減まで減少幅を広げています。

以上のように、多くの国で日本からの医療機器の輸出金額が大幅に減少していることがわかりました。要因は日本側の問題なのか、各国における COVID-19 感染拡大の影響なのかそれ以外なのか、様々なことが考えられますが、いずれにしてもデータを用いて継続的に注視する必要があります。

今回は、貿易統計のデータを用いて医療機器の輸出金額の推移を確認しましたが、この結果と医療機器の統計データとして最も一般的な薬事統計とを比較する場合は次のような注意が必要です。それは貿易統計が、本船に積み込むまでの費用を負担する FOB 価格(本船渡し価格)で計上されているのに対し、薬事統計は国外の販売業者への販売金額で計上されるという違いがある点と、医療機器の区分が貿易統計は HS コード毎に公表されているのに対し、薬事統計は JMDN コード毎に公表されているという違いがある点です。例えば、2020 年 6 月の輸出金額で比較すると、貿易統計では約 571 億円であったのに対し、薬事統計では約 709 億円となっています。

また、薬事統計と比べて貿易統計を用いて医療機器産業を分析するメリットは、国別の輸出金額が把握できることと、調査月の翌月末には月報が公表されるという迅速性が挙げられます。現在のコロナ禍のようにグローバルで起きている変動が医療機器業界に与える影響をより早く俯瞰するのに適した統計データであり、今後さらに詳細な分析に使用したいと考えています。

出所：*1.普通貿易統計　月報(品別国別表)
https://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm

(医療機器政策調査研究所　青木信宏　記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ　@JFMDA_MDPRO
Twitter で医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。